



特集

居場所

子どもカフェの取り組み



「子どもカフェ」とは

地域の子供たちの成長を支え、子ども自身が困難に立ち向かい、乗り越えられるように自立する力を育てる場所。学習支援や食事の提供、悩みの相談により、家庭の機能を補完する複数の機能を持つ居場所の総称。

居場所づくり の子どもカフェ

子どもカフェ、子ども食堂と聞いて「食事を満足に食べられない子供たちに食事を提供する」とイメージする人は多いかと思いますが、実はそれ以外にも多くの目的があります。

- ・ 地域住民の交流場所
- ・ 学年を超えた子ども同士の交流場所
- ・ 親同士の交流場所
- ・ 大人と子どもの交流場所
- ・ 手作りの温かい食事をみんなで食べる場所
- ・ 子どもの遊び場

など、多くは生のコミュニケーションを行う「居場所」として活用されます。また、地域全体で支援することで多世代交流の場にもなり、地域活性化にも一役買っていることが考えられています。

子どもカフェ

支援

相談

- ・中野市社会福祉協議会
- ・中野市子育て課
- ・北信地域振興局
- ・長寿社会開発センター北信支部
- ・JA中野市
- ・フードバンク
- ・地元企業

信州子どもカフェ 「中野モデル」

中野市にある子どもカフェは、市民のボランティアで組織されています。その活動には長野県や市、社会福祉協議会などの多くのサポートが存在します。

サポート内容
支援金、食材、場所、人材、情報

大人の関わり方

2019年現在で全国にある子どもカフェは、3700カ所を超えています。全国の小学校数に対しての割合は全国で平均17・3%。小学校6校に対して1カ所あると考えられます。長野県でも16年は2カ所しかなかった子どもカフェが18年には80カ所に増え、活発に活動しています。

子どもカフェを運営するためには、次の課題があります。

- ・資金確保（生鮮食品、保険、会場使用料、光熱費）
- ・担い手の確保（相談、学習支援などのスタッフ・ボランティアの確保と育成）
- ・地域における連携支援（企業・学校などとの連携）

これらの課題を解決するためには、地域の理解が必要です。また、市内には6カ所の子どもカフェが存在していますが、ボランティアが不足している場所もあります。

「小学生の勉強なら教えられるよ」「子どもと遊ぶの好きだよ」などボランティアに興味がある人は、ぜひスタッフとして参加してみたいかがでしょう。

子どもカフェでも活用 フードドライブ

フードドライブとは、いただき物や買い過ぎてしまった物など、家庭に保管されている食品を集め、フードバンクを通じて食の確保に困っている人を支援する活動です。（20ページもご覧下さい）

期日 毎週第1火曜日
時間 午前9時～11時
場所 中野市役所玄関

☎中野市社会福祉協議会 ☎0269 (26)3111

